

ある日の関東学生クラブ選手権大会

第17回関東学生クラブ選手権大会が、ことしも9月20日(日)からスタートしている。この大会はサンケイスポーツ紙の後援を得て開催され、試合結果が翌日の紙面に掲載される。1部～4部のリーグ戦に分かれて開催されているが、どのチームも1年間の力を試すべく熱戦が続いている。

大会は単に覇権を競うラグビーの競技会であるばかりでなく、ラグビーの根本にある精神的なものやマナー・エチケットなどを競い合う大会でもある。その一環として大会運営は学生クラブが輪番で担当するコラボレーション・システムが採用され、自らの大会は、自らの手で運営するという自治的精神にあふれた運営システムが採られている。

また、学生クラブでは10数年前から帯同レフリー制度を採用し、公認レフリーの養成にも力を注いできた。学生クラブから育っていったレフリーの中からは、A1級、A2級レフリーも輩出し、日本ラグビーの一翼を支えている。

<コラボ・システムとは・・・>

- ① 自チームの試合がない一日、グラウンド準備から撤収まで、またタッチジャッジや本部席での選手の交替入替の管理、記録管理や広報活動など競技運営を終日にわたって1クラブが輪番で担う。(メンバー10数名で対応)
- ② 卒業しても末永くラグビーに関われるよう、コラボ・システムの統率者は若手OBが務め、現役との交流が切れないようにしている。
- ③ 秩父宮ナイトゲームの際のボールボーイを務める。

<大会結果>

大会の結果はサンケイスポーツに掲載される他、毎節ごとの結果は、関東協会ホームページでご覧頂けます。

⇒<http://www.rugby.or.jp/clubinfo/club/2009/17thkantogakuseiclubkumiawase.pdf>

<ある日の大会風景>

10月4日(日)は駒沢補助球技場で1部6チーム3試合が実施された。強豪チームが集まるとあって、会場はOBや父兄、学校関係者などの歓声に包まれ、大いに賑わった。また、コラボレーションチームは、中大パトスと、ブルーレッズの2チームの30余名。午前8時半の集合から午後5時の撤収まで、終日大会運営を担当した。最後の人工芝に水性ペイントで引いたラインをデッキブラシで洗い流して、夜間利用のサッカー連盟に受け渡すまで大変な作業であった。プレーに専念できた選手は、感謝！感謝！中大パトスとブルーレッズの皆さん、次は試合で頑張ってください。

- ① 第一試合は、くるみクラブと慶応JSKSとの対戦。終始リードしていたJSKS に対して、最後の最後にくるみクラブが、35－29と逆転に成功した。



くるみクラブ 35－29 慶応JSKS (Ref. 高知尾武彦氏)

- ② 試合後はブレザーやスーツ(正装)に着替え、アフタマッチファンクションを実施している。両チームのキャプテンの挨拶やレフリー講評、お互いにマン・オブ・ザ・マッチを選定するなどノーサイド精神を遺憾なく発揮している。両チームには兄弟プレーヤーが在籍しており、紹介されると会場内は大いに沸いた。



くるみ－JSKS戦の交歓会。司会を担当したくるみクラブ主務の軽妙洒脱な進行で、会場内は大いに盛り上がった。

- ③ 第二試合は、明大MRCと早大GWRCとの早明戦！ 優勝争いに絡む全勝同士の戦いであって、熱い熱い戦いが繰り広げられた。スーツ姿の控えメンバーも上着を取って熱のこもった声援を送った。



明大MRC 45-14 早大GWRC (Ref. 川寄真也氏)

- ④ どこへいっても学生ラグーマンはお行儀がいい。一社会人としての常識をわきまえ、マナーの遵守や感謝の気持ちを忘れないことが大切である。



早大GWクラブはバッグをきちんと整理整頓して並べていた。

- ⑤ 第三試合は、早大こんぶれっくす<対>早大リスの会との対戦。どちらも早稲田のクラブチーム同士の対戦となった。こんぶれっくすがゲームプランを徹底して勝利した。



早大こんぶれっくす 29-0 早大リスの会 (Ref. 野渡寛介氏)

- ⑥ 駒沢補助球技場には選手ばかりでなく、多くのOBや父兄も観戦につめかけた。公園内とあって、たまたま通りがかった一般利用者がふらっとラグビー観戦を楽しんでいた。



多くの観戦者が訪れた駒沢補助球技場。仲間やOB、父兄の声援も学生クラブを盛り上げる大きなエネルギーとなる。

(KH生)